

益田 祐美子（ますだ・ゆみこ）先生

株式会社平成プロジェクト 代表取締役

1961年2月、岐阜県高山市生まれ。

金城学院大学卒業、同大学での研究「高齢者用商品開発への提言と実際」が、商品研究大賞受賞。翌年通産省エネルギー大賞優秀賞受賞。

NHK岐阜・名古屋でニュース、子供向け番組に出演。

1987年、月刊「Home Economist Wise」誌記者。

1995年、中東との貿易会社キミヤインターナショナル設立・顧問。

現在、コンテンツ企画集団株式会社平成プロジェクト代表取締役。

2011年「瀬戸内国際こども映画祭」総合プロデューサー。



委員：内閣府「生活者の観点からの地域活性化調査」委員

経済産業省第2・3回「ものづくり日本大賞」審査委員

第39回技能五輪国際大会スポークスマン

社団法人水都 理事 他

〈講義概要〉

株式会社平成プロジェクトの代表取締役として、映画やコンテンツ製作をプロデュースする益田祐美子氏が、2011年開催の「瀬戸内国際こども映画祭」の構想について講義を行った。

講義では、「瀬戸内国際こども映画祭」の企画の目的や特徴について、瀬戸内地方の映像や瀬戸内に関連する映画の映像などを交えて紹介。日本映画界の現状を踏まえた上で、この映画祭が現在の日本映画界の流れを良い方向に転換できる企画であることを説明した。また、自身の海外での映画製作の経験をもとに、権利関係の考え方や世界での日本映画の位置づけについて解説し、世界の中での日本映画のあり方について学生に新たな視点を与えた。さらに、自身がプロデュースした映画の製作にまつわるエピソードから、映画製作現場の実態を具体的に伝えるとともに、様々な圧力の中でも「何のために映画をつくるか」という信念を曲げないことの重要性を示した。

加えて、「きらきらした人に人は集まる」、「本気が人を動かす」、「夢は大きく志は高く現実楽しく」などの数々の言葉から、学生はものづくりのみならず人生において大切な考え方を学んだ。

《受講生の感想》

● 益田先生の映画に対する思い、瀬戸内国際こども映画祭に対する思いが伝わってくる講義でした。また、映画製作の仕組み（権利・金銭関係等）の話もあり、非常に興味深く聞かせていただきました。「映画脚本で大切なのは“何を伝えたいか”ということ」という話はまさにその通りだと思いました。

立命館大学・産業社会学部・4 回生

● 瀬戸内国際こども映画祭の企画意図は大変興味深いものでした。前置きで述べられた映画産業の資金や人材の循環の悪さに対しての解決策を提示する形で立案、運営されようとしている所にひかれます。イベントで作られた作品や得た資金を次回に活かす仕組みは、上手くいけば制作の良い循環が生まれると思います。

立命館大学・映像学部・4 回生

● 自分が「やりたい」という意志をしっかりと持っていれば、相手にその想いは伝わるのだなと思いました。また、人とのコミュニケーションや自分を失わないことなど、映画制作において大切なことを教えて頂きましたが、これは映画以外にもあてはまることだなと感じました。

立命館大学・文学部・3 回生

● 今回益田先生の話聞いて、新しいことを始める際に、ビジョンがはっきりしていないとダメだと思いました。どうして今までのものではダメなのか、新しいメリットは何なのか、目標はどこなのか、周りがどう感じるのか、何のために何をすべきなのか、そういう点を自分の中ではっきりとさせておくことが大切だと思いました。

立命館大学・文学部・3 回生

● お金のつながりではなく、心のつながりで作られた作品というのは、きっと良いものになるんだろうなと思った。効率優先、マーケティング優先の夢のないものづくりでは、産業の未来はないのではないかなと思わされた。さらに大きな視野でものづくりを考えていくべきだと思った。

立命館大学・産業社会学部・1 回生

● 映画を作る時には有名な俳優を使わないと、映画ファンでない限り、ほとんど見てもらえないと思います。でも、何のためにつくる映画かという本質を曲げなかった先生や制作者の方々の情熱に感銘を受けました。

佛教大学・社会学部・2 回生

